

糸島通信

【いとしま つうしん】

NO. 40

2022
FEBRUARY

糸

Photo/Seiji Watanabe

特集 カラフルで可憐な春の花

フラワー
アレンジ付き

アネモネ



糸島ビーブル
(株)荒木のつけもの

伊都菜彩のイチオシ
オンラインショップ
OPEN!

糸 カラフルで可憐な春の花

アネモネ

昼と夜で開閉を繰り返す、
自由で動きのあるアネモネ。
日持ちのよさも人気の理由。
JA糸島アネモネ共選部会では、
年間100万本前後が
出荷されています。



Hydro
Harusaki

Illustrated by Yoko Harusaki
<http://www.harusaki-suisai.com>

糸 手軽なフラワーアレンジ

お洒落に楽しむアネモネのアレンジ

アネモネ

花言葉：期待、真実（白色）君を愛する（赤色）
開花時期：2～5月 科属名：キンポウゲ科イチリンソウ



さまざまな種類のアネモネで
一幅の絵画のようなアレンジ 1

アネモネは1輪のなかでも赤、白、青と色がさまざま色を持っています。また、可憐なほど重咲きから花びらが重なる八重咲きまで咲き方もさまざまなので、大きめの花瓶に無造作に生けるだけで、一幅の絵画のような雰囲気があります。

【花材】 ■アネモネ

異なる花にお庭のハーブを添えて
まるでカフェのような雰囲気 2

アネモネと違う花を合わせる場合は、異なる個性の花で高低差をつけて飾るのがポイント。今回はランタンキュラスとルピナスを合わせました。お庭に生えているローズマリーなどのハーブを添えると、ぐっとお洒落な印象になります。

【花材】 ■アネモネ □ランタンキュラス ■ルピナス
■ローズマリー ■ユーカリ ■カミモル



アネモネを長く楽しむコツ

アネモネの花びらは、光と温度に敏感に反応するので、できるだけ涼しく、あまり日が当たらないところに飾りましょう。
花を長もちさせる基本は、毎日の水替えと切り戻し。器の水は毎日替えて、そのたびに茎先を1～2cm切ると水が上がりやすくなります。

未来の匠「アネモネ」



▲左からJA系島アネモネ共選部会会長の溝口雄太さん(33歳)と高宮広樹さん(29歳)。



▲小輪の八重咲きで人気のセントブリジット。サイズは2L(45cm)からS(24cm)まで。



▲手入れの行き届いた溝口さんの圃場。一重咲きのデカンと八重咲きのセントブリジットを栽培。

躍動感のある春の花に癒されて。

花びらに見える薄く繊細ながく片の重なり、スラッと長く伸びた茎が可憐な印象を生むアネモネ。JA系島アネモネ共選部会の部長、溝口雄太さんと高宮広樹さんに「春を呼ぶ花」の魅力について伺いました。

現在、7軒の部会員が栽培を行うアネモネ。大輪と小輪に大別され、大輪は一重咲き、小輪には一重咲きと八重咲きがあります。白・ピンク・紫・赤など色も多彩。花形の表情が豊かな小輪は、4色をミックスして販売するのが系島スタイルです。「色や種類によって販売数にばらつきが出ないように部会で考えたアイデアです」と溝口さんは話します。

年間の作業では、5月から土壌消毒を行い、病気が入らないようにしっかりと土づくり。8月後半にデカン、セントブリジットといった品種の球根を冷蔵庫に1ヵ月保管し芽出しを行い、9月後半に定植。2ヵ月ほど生育管理を行うと11月後半には蕾が膨らみ始めます。栽培でとくに注意しているのは、アネモネが好む低い低温

を保つ温度管理と電照といえます。

部会で目指す品質の良いアネモネは「茎が曲がらず、まっすぐ長い」立ち姿の美しさ。それぞれの圃場の環境に合わせ、施肥や水やりはもちろん、日照や水が均等に行き渡るように葉の重なりを掻き分ける作業、電照を使った成長促進など各々のやり方を工夫育て上げています。

共選出荷は12月中旬にスタートし、4月上旬まで。「購入のタイミングで開花するように、蕾は固いまま出荷します。昔より技術が上がって日持ちしますし、東京、大阪の市場にも届けています。何より品質の良さを認めていただき、ニーズがあるのが嬉しい」と、就農前は花屋に勤め、消費者の声や流通を学んだ高宮さん。「より良い品質のアネモネを届けたい」という思いのもと、梱包まで負荷がかからないよう箱に固定するなど細心の注意を払っています。

全国に広がれ!「糸島の花生活」

自宅に花を飾る人が増えている今、アネモネ共選部会では、オンラインショップなど直接、消費者に花を届けるサービスとの連携も前向きです。

「花のある生活を身近に」という生産者の思いと繋がり、JA系島では花卉普及を広げる取り組みを積極的にも展開する「ラッピングトラック」。全国での販売促進活動がままならない中、糸島の花と風景画をトラックに描き、関東・関西方面を中心に糸島の花をアピールする目的で実施中です。

さらに、昨年は市内の神社と花店へ協力を呼びかけ、市民の方や糸島を訪れる人たちに「明るい気持ちと華

やぎを」と、手水場に季節の花を活ける「糸島花手水(はなてみず)」のプロジェクトも展開し、喜ばれました。暮らしのワンシーンやヒーリングスポットで花に触れる機会を増やすことで、少しでも心が軽くなり癒されてほしいというのが花卉に携わる全ての人の思いです。

花の中でも、アネモネは日中に開花し夜になると閉じる躍動感が魅力。寒い所を好むので、玄関などに飾るとより日持ちするそうです。一重咲きの大輪はアネモネらしい華やかな雰囲気、小輪は可憐で色鮮やか。どちらもギフトに好評です。「様々な要望に応えられるよう、部会員それぞれが受け持つ品種を決め、丹精込めて育てています。春の花なので、糸島ならではのカラフルな色彩を楽しんでください」と溝口さん。高宮さんからは

「今はうちで“吹き詰め咲き”という赤色の珍しい品種も栽培していますが、増やすのが難しいんです。どこかでもし出会った時は幸運かも!」とレア情報も飛び出し、共に笑顔が弾けました。



▲訪れる人に癒しを与える、桜井神社に彩られた「糸島花手水」。



▲ラッピングトラックで糸島の花をアピール。風景画は宮田ちひろさん作。

「糸島通信」読者プレゼント

③「荒木のつけもの」と「伊都ひかり(糸島産コシヒカリ5kg)」セット5名様

【応募方法】
お名前・年齢・ご住所・お電話番号・糸島通信No.40のご感想をお書きの上、ハガキまたはFAX・E-mailにてご応募ください。インスタグラムからは、フォローしていただきメッセージ機能よりご応募ください。

【宛先】JA系島 総合企画課
お名前：〒819-1193福岡県糸島市前原東2-7-1
FAX：092-323-6137
E-mail：present@ja-i-toshima.or.jp

※お寄せいただいた個人情報、当プレゼントご当選の方へのご連絡のみに利用し、厳重に管理保管の上、使用後は速やかに破棄いたします。
※当選者の発表は商品の発送をもって代わらせていただきます。

【締 切】2022年3月23日(水)





少しずつ春の訪れを身近に感じる季節になりました。今回はわりと作りやすい人参をプランターに種をまいて人参栽培にチャレンジしてみよう。人参は緑黄色野菜でカロテンやビタミンB2などを多く含み、あらゆる料理で重宝されます。種子を蒔いて蒔いてきてネキリムシなどの害虫はいますが、比較的虫がつきにくく作り易い作物です。



<準備するもの>
培養土・肥料・にんじん種・プランター

【種まき】

人参はセリ科の好光性種子（発芽に光を必要とする種子）なので、深く種を蒔くのは厳禁です。深さは、よくても1cmくらいしかりません。種播きであれば間隔を3mmくらいでずし蒔き、コーティング（触れている）種子であれば、間隔を12cmくらいで蒔いてください。その際に「覆土を浅くかけ、少し鎮圧」しておくとよいです。また、人参は種の殻が非常に硬くて、水分が透過しにくいので多くの水分を必要とします。芽がでてくるまでの間は乾燥しないよう、もみからや福わらなどをうっすら地面が見える程度にかぶせてやるのも効果的です。ただし、水やりは種子に覆土が浅い分、水の勢いがあると種子が流れてしまうので注意してください。

【発芽・収穫】

発芽適温は15℃～25℃で、いよいよ芽が出てくると本葉が1枚～2枚の頃に間引きし、その後は本葉3枚～4枚の頃、本葉5枚～6枚の頃に間引きをし、葉が重ならないよう株間が15cmくらいになるように調整してください。間引きした人参のハザはおひたしやサラダ、天麩羅にして食べたらおいしいですよ。できたら追肥を本葉4枚の頃に与えてください。

そして、種子を蒔いてから三寸人参とかであれば100日程度、五寸人参とかであれば120日程度で収穫期を迎えます。この収穫期に土が極度に乾燥してしまうと割れてしまうおそれがあるので注意しましょう。人参の種類には黄色や白、紫などの色をしたものやミニサイズに育つものがあるので栽培して食事に彩りを添えてみてはいかがでしょうか。



種を蒔く深さは1cm程度。

本葉が4枚くらいで2回目の追肥。

ずし蒔き後は、覆土して少し鎮圧。

収穫前。極度の乾燥に注意。

葉が出てきました。ここで追肥。

収穫。自家菜園だと味も格別!

荒木のつけもの。44年の手間隙が美味しさの秘訣。

毎日の食卓に欠かせない漬物。栄養価の高い発酵食品として親しまれています。糸島で40年以上、その伝統食を手作りしているのが浦志にある「荒木のつけもの」。長崎で漬物の製造会社に勤めていた祖父の荒木良生さんが、配達途中に立ち寄った糸島の地に市場価値を見出し、起業。オリジナルの漬物づくりを始めた。現在は、孫の森大地さんが代表を継ぎ、家族3代とスタッフで営んでいます。

みそ漬、高菜漬、粕漬、新生姜など商品数は約50種類。材料は糸島産を中心に、長崎の生姜や人参、宮崎の大根など素材を吟味。高菜やきゅうりなど契約農家の圃場を親覧しながら、漬物づくりにベストな状態を見て収穫する作物もあります。

厳選素材と合わせて、こだわりは独自の製法。例えば、高菜の古漬の場合、通常なら地中にタンクを入れ、そこに人が入って漬けるのが一般的。「うちはしっかり洗いをかけて、1トンタンクを使って地上で漬け込みますから、砂が混入しない、きれいな商品が自慢です」と荒木さん。みそ漬にしても、塩

漬けて一度洗って、様々な素材を混ぜ込んでまた漬けて…と漬け直しの工程を経て味が決まります。「よしよ、美味しなあれ」と気持ちを含めて、1年以上寝かせます。漬け直すことによって味に深みが出てくるんですよ」と話すのは、森さんの母・尚美さんです。衛生面を徹底し、手間を惜しまずするため「アクがない、商品がきれい」と評価され、ファンが付いていきました。各種商品はホテルやスーパーなどで取り扱われる他、「牧のうどん」のかかわご飯に付く、あの黄色いたくあんも35年のロングセラーです。

伝統を踏襲しながら、森さんは20代の感性を生かし、オンラインショップやふるさと納税など新たな顧客開拓にも動きます。「糸島は移住者や起業する方も多いです、チャレンジできる場になっているので、一緒に面白いことができたら嬉しいですね。まだまだ種蒔きの年です」と意気込みます。ゆくゆくは、夢は、海外輸出。「これだけ和食が世界に広まる中で、和食とセットのお漬物は未開拓の市場。これからです!」



▲会長の荒木良生さん(右)と代表を務める孫の森大地さん(左)。高菜生産者の圃場にて。

荒木良生さん

長崎県島原市出身。長崎市内の漬物製造会社に勤務後、36歳で糸島に移住し、起業。80歳、現役で商品開発を行う。

森大地さん

大学で経営学を勉強し、卒業後は食品専門会社に3年勤務。2021年に2代目社長に就任。26歳。

「(株)荒木のつけもの」公式サイト



住所 / 福岡県糸島市浦志2-13-3
電話 / 092-323-2193

※注文はオンラインショップから申し込めます。



1 キフトボックスは、糸島のシシトウ・二見かつ夫婦岩を用いて森さんがプランティング。2 キフトセットは「荒木さんちのこだわりアブリ」3種類から選べます(2700円〜)。賞味期限は冷蔵30日。3 色とりどりの自家製漬物がずりり商品全部で50種類ほど(300円台)。ロングセラーはみそ漬・塩漬・大根の山漬・雲山漬。エースはこの数年で製造を始めた高菜漬。現・売・備・蓄・の糸島高菜漬は前年度の0.5倍の取引量を記録したそう。4 葉が集まる完成品が不特定利用の賞高菜漬。5 昆布を下ごしらえする作業風景。「荒木のつけもの」を食べたファンになり、スタッフになった方も。6 着ぐるみを着た荒木さんが考案したも。

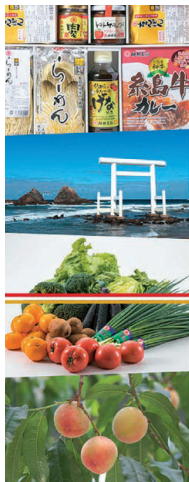


アグリ JA糸島 Agri
糸島市志摩小倉士14-34
TEL:092-327-2740
営業時間:夏期8:30~20:00 冬期8:30~18:00
定休日:年給のみ

営業総合センターの東側に隣接する「Agri」では、家庭菜園に最適な苗、肥料などを始め、農業生産に必要なあらゆる農業資材が揃っています。糸島産・家庭菜園好きには、たまらない売場スポットです。店内には、産直コーナーや生活用品、食品コーナーも設置しています。

糸島地域の安心で安全、多彩な農畜産物を食卓に。

伊都菜彩の「オンラインショップ」がOPEN!



「糸島産」の全てが、
そのままいっぱい詰まった

伊都菜彩の ギフトセット



大切なあの人への贈り物や、頑張った自分へのご褒美に
いかがですか。

詳しくはこちら



糸島の豊かな自然環境のもと、育まれた多彩な農産物や加工品、オリジナル商品など「安心して食べていただきたい」という想いで生まれた、さまざまな人気商品がお買い物いただけるオンラインショップがオープンしました。

肉類・野菜・くだもの・お米・加工品と“糸島の旬”を閉じ込めた厳選アイテムをはじめ、大切な人や頑張った自分へのご褒美に贈りたい、糸島産の美味しいものがいっぱい詰まった「ギフトセット」も充実。サイト内には、困ったときのお役立ち献立を集めた「まるいと印の旬レシビ」も紹介しています。



オンラインショップへアクセス

「伊都菜彩」[itosaisai.shop]

検索

Instagramでも旬の情報を配信中です。



JA糸島株式会社
糸島菜彩

糸島市波多江567
TEL: 092-324-3131
営業時間: 9:00~18:00
定休日: 年始のみ

編集後記

今号は春の代表花「アネモネ」をテーマに、生産者の方々、繋がる糸島の花弁業界の取り組みについてご紹介しました。アネモネは春風がそよぐ頃に開花することから「風の花」とも呼ばれ

るロマンチックな花です。花言葉は「期待(白)」や「君を愛す(赤)」など。カプセルなブーケはもちろん、ときには花言葉に思いを乗せて、記念日などに贈ってみませんか? (編集部)

発行 JA糸島

糸島通信 令和4年2月発行 通巻40号
〒819-1193 福岡県糸島市前原東2-7-1 TEL: 092-322-2761
<https://www.ja-itoshima.or.jp>

